

臨床研究「心房性僧帽弁閉鎖不全に対するグルタルアルデヒド処理自己心膜パッチによる後尖拡大術を施行された患者さんの予後に関する調査」について

筑波大学附属病院循環器内科では、標題の臨床研究を実施しております。
本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

心房細動は加齢とともに発症しやすくなる不整脈疾患であり、近年の高齢社会において、その頻度は益々増加しております。心房細動が長期に持続すると、左房や僧帽弁輪が拡大かつ僧帽弁後尖が短縮して、有意な僧帽弁閉鎖不全を生じる場合があることが最近明らかとなりつつあります。このような病態は、心房性僧帽弁閉鎖不全症と呼ばれ、薬物療法を行っても心不全入院を繰り返す患者さんには、僧帽弁形成術（グルタルアルデヒド処理自己心膜による後尖拡大術）が効果的であることが報告されています。しかし、疾患概念が確立したばかりの心房性僧帽弁閉鎖不全症においては、この手術を行った後の予後や心機能の変化に関して十分な知見がないため、本研究ではそれを明らかにすることにより、心房性僧帽弁閉鎖不全症の患者さんの適切な治療方法の選択に貢献できるような知見を得ることを目的としています。

② 研究対象者

倫理審査委員会承認後から2023年3月31日までの間に、当院で僧帽弁形成術（グルタルアルデヒド処理自己心膜による後尖拡大術）を受けられた心房性僧帽弁閉鎖不全症の患者さん

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2025年3月31日まで

④ 研究の方法

本研究の対象は、特定臨床研究『心房性僧帽弁閉鎖不全（Atrial MR）に対するグルタルアルデヒド処理自己心膜パッチによる後尖拡大術の有効性・安全性の検討』において登録された患者さんです。手術後の経過を調査する観察研究であり、通常の検査、診療記録から得られる情報を登録し、解析させていただきます。

⑤ 試料・情報の項目

検査画像および診療記録から下記の項目を調査します。

- ・基本項目：性別、年齢、身長、体重、血圧、脈拍、併存疾患の有無など
- ・診療上の必要により行われる検査のデータ：血液検査、心電図、心エコー図検査など
- ・治療内容と臨床経過

⑥ 試料・情報の第三者への提供について

行いません。

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学循環器内科 助教 町野智子

⑧ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、情報の利用又は提供の停止を希

望される場合は、下記の間い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑨ 間い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：筑波大学附属病院 循環器内科（助教 町野智子）

電話： 029-853-3143（循環器内科医局 対応可能時間 平日 9:00～17:00）

FAX： 029-853-3227